

新年のご挨拶

太田市医師会長 小島 章

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましてはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年より厳しい経済不況、デフレの続く中で今年は参議院選挙の年であります。今のままでは民主党が大勝し、国会での連立の必要性がなくなり、また、小沢一郎民主党幹事長等による自民党潰しが進み、自民党は急速に求心力を失い、存亡の危機に立たされるか、政界大再編が引き起こされるのか、民主党はマニフェスト至上主義から脱却し、真に日本を強くして国民の生活をよくする予算、政策を採用し、高い支持率を維持できるかどうか为正念場であります。

10年間も続く医療費抑制政策のもと、医療の現場はまさに崩壊の危機に瀕しており、医療界にとっては4月の診療報酬改定がプラスになっているのかどうかが大変問題です。衆議院選挙のマニフェストでは、数パーセントのプラス改定となっておりますが、昨年11月の仕分け作業では厳しい見直しになっており、財務省は依然として減額を進めようとしており、財政的に中立ということで病院の取り分を増やし、開業医の取り分を減らす、または今後優遇される小児科、産科、救急部門と、そうでない減らす部門があり、新しい医療の財源を増やさないと、医療の現場の崩壊がますます進むことが危惧されます。

さて、太田市では、昨年4月に太田市長選挙があり、現職の清水聖義氏が5期目の圧勝となり、今後も行政と協力して地域医療の充実を推し進めたいと存じます。また、同時に行われた大泉町長選挙において、合併反対の新人町長が当選し、大泉町との合併はご破算となりました。市税を総額で30数億円注入して総合太田病院の移転、拡充を図り、群馬県の協力も得て、救急部門を一層充実させ、更に救急を担う他の5病院への補助も増額し、市民が急病時にできるだけ地元で対応できるよう対策を練っております。地域医療再生基金の一部や遠隔医療ネットワーク事業を有効に使うって救急医療の充実、病病連携、病診連携を進展させていければ幸いと存じます。

昨年4月メキシコで発生した新型インフルエンザA型H1N1は、たちまち全世界に感染が拡大し、群馬でも6月に発生し、太田市においても10月中旬より大流行となり、太田市平日夜間急病診療所の患者数も急増し、特に土曜日には患者様が殺到し、深夜まで診療の終わらない日もあり、当診療所の存在意義を高め社会的責任をアピールできたと自負しております。日曜祭日の当番医も全科の先生が協力し、3班の先生が診療していただきましたが、昨年12月より今年3月まで小児科・内科を標榜する医院の協力を得て、更に1班を増やし、4医療機関で当番を担い患者様の増加に対応することになりました。医師としての使命感、地域医療を守るという熱き思いに心より感謝を申し上げます。

レセプトのオンライン請求義務化の問題に関しては、昨年11月25日、厚労省は電子媒体による請求であれば認めると官報告示がありました。太田市医師会は代行送信の準備をしているところであり、その対応をこれから協議していきたいと存じます。医師会の新法人化の件に関しても公益法人にするのか一般法人にするのか、問題点が多くこれも今後の推移をみて決定したいと存じます。

今年は、太田市医師会は設立50周年を迎えることになり、秋に50周年記念誌の発刊と、記念式典を開催すべく鋭意準備しております。新型インフルエンザの流行もあり、会員の皆さんの果たす役割がますます重要になり、大変多忙な日々が続くと予想されます。本年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。結びになりますが、県医、太医、関係各位のご活躍、ご健勝、ご多幸を心より祈念申し上げ年頭の挨拶とさせていただきます。